

## シナジオ乳剤

■種類名：トリフルラリン・IPC乳剤

■有効成分：トリフルラリン----- 33.0%  
IPC----- 11.0%■登録番号：第22968号(日産化学登録)  
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)  
■登録初年：2011.09.28  
■性状：黄赤色澄明可乳化油状液体  
■有効年限：5年  
■包装：500ml×20本  
■危険物：第二石油類(水溶性)危険等級Ⅲ  
火気厳禁

## 【特長】

- 一年生雑草の発生前散布で優れた効果を発揮する土壌処理型除草剤。
- トリフルラリンが土壌表層に薄く強い処理層を、IPCが比較的広い処理層をすることで、土壌の浅い部分と深い部分の両方に働きかけ、雑草に対して安定した効果を発揮する。
- 体系防除や耕種の防除と組み合わせることにより、難防除雑草の密度抑制効果が期待できる。

## 【適用内容】(2016年5月25日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	トリフルラリンを含む農薬の総使用回数	IPCを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量					
小麦 大麦	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科を除く)	は種後出芽前 (雑草発生前)	全土壌 (砂土を除く)	300~ 400ml /10a	100 $\frac{1}{10}$ /10a	1回	全面土壌散布	全域 (北海道を除く)	2回以内	1回
2回以内 (全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内)										
たまねぎ		定植後(雑草発生前) 但し、 収穫90日前まで				2回以内			2回以内	

## 【効果・薬害等の注意】

- 本剤は雑草発生前の散布が有効で、発芽後の雑草には効果が劣るので、雑草発生前に散布すること。
- 土壌が極端に乾燥していると除草効果が劣ることがあるので、土壌が適当な水分を含んでいるときに散布すること。
- 砂土での使用は避けること。
- 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分に注意して散布すること。
- 碎土、整地はできるだけいねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ厚く行うこと。
- 蚕に影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 激しい降雨が予想される場合の使用は避けること。
- 本剤は自動車などに散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- 本剤は靴、作業着などに付着すると着色するので取り扱いに注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は、他のものと分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。  
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 危険物第四類第2石油類に属するので火気には充分注意すること。爆発性、皮膚腐食性はない。
- ❖ 保管：火気をさけ直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。